

福岡都市圏津屋崎地区における 長期的保全活動のための基盤構築

福岡都市圏の生き物を考える会

代表 鬼倉 徳雄

福岡県

1. 背景および目的

希少な野生生物の保全や生物多様性の保全を実現するには、大学等の研究機関と一般の保全活動団体が連携することが不可欠である。大学等の行う研究の中で保全のために有効に活用されるべき科学的データが得られても、学会発表や学術雑誌の中でデータが公開されるだけでは、十分とは言えない。保全活動団体の各種啓発活動の中でそれらのデータが効果的に活用されることで、野生生物や生物多様性の保全が適切に遂行できるであろう。

本会は、福岡都市圏の自然、歴史、環境、そして、野生生物の保全のための効果的な活動を実践するために、大学と保全団体とのネットワーク構築を行い、様々な場所で独自に活動する保全活動団体・大学間の情報交換の場を提供しつつ、互いに連携しながら適切な保全活動を実践することを目指している。本提案課題は、福岡県福津市津屋崎地区をターゲットとし、保全団体・大学とのネットワーク構築と互いに連携した活動の実践を通して、長期的保全のための基盤形成を進めることを目的とした。

2. 対象地の特徴

津屋崎地区は福岡県福津市内にあり、100 万都市の福岡市・北九州市に挟まれた立地にあり(図 1)、九州の中心地である JR 博多駅から 20 分圏内であるため、近隣の大都市圏のベッドタウンとして著しい発展を遂げている。また、週末をレジャーで過ごす福岡都市圏から人の流入も多い。一方、この都市は内湾干潟(図 2A)・砂浜・水田地帯などの多様な自然景観を持ち、そこにはカブトガニ(図 2B: 環境省レッドデータブックにて絶滅危惧 I 類)・アカウミガメ(同ブックにて絶滅危惧 II 類)・クロツラヘラサギ(図 2C: 同ブックにて絶滅危惧 IA 類)・ニッポンバラタナゴ(図 2D: 同ブックにて絶滅危惧 IA 類)・チクゼンハゼ(図 2E: 同ブックにて絶滅危惧 II 類)・エドハゼ(同ブックにて絶滅危惧 II 類)などの希少野生生物の生息地が残り、福岡都市圏で最も質の高い自然遺産を持つ。このような背景から、自然・生き物と都市化をはじめとする人間活動との調和が求められている。



図 1. 福岡県福津市の位置.

また、申請者が生物系の科学者であったため、本課題の申請当初は想定していなかったが、後述する各種市民団体との合意形成の過程で、福津市内には世界遺産の暫定候補に挙げられる古墳群(図 2F)を始め、江戸時代前期の新田・塩田開発に関連する史跡、黒田藩が植林した広大な松林、明治時代の古い造り酒屋(図 2G)など、様々な年代の歴史・文化遺産を多く持つことが明らかであり、単なる自然と生き物の保全のための基盤形成ではなく、歴史・文化・景観などを含めた複合保全を視野に入れた活動を行った点も本課題の大きな特徴である。

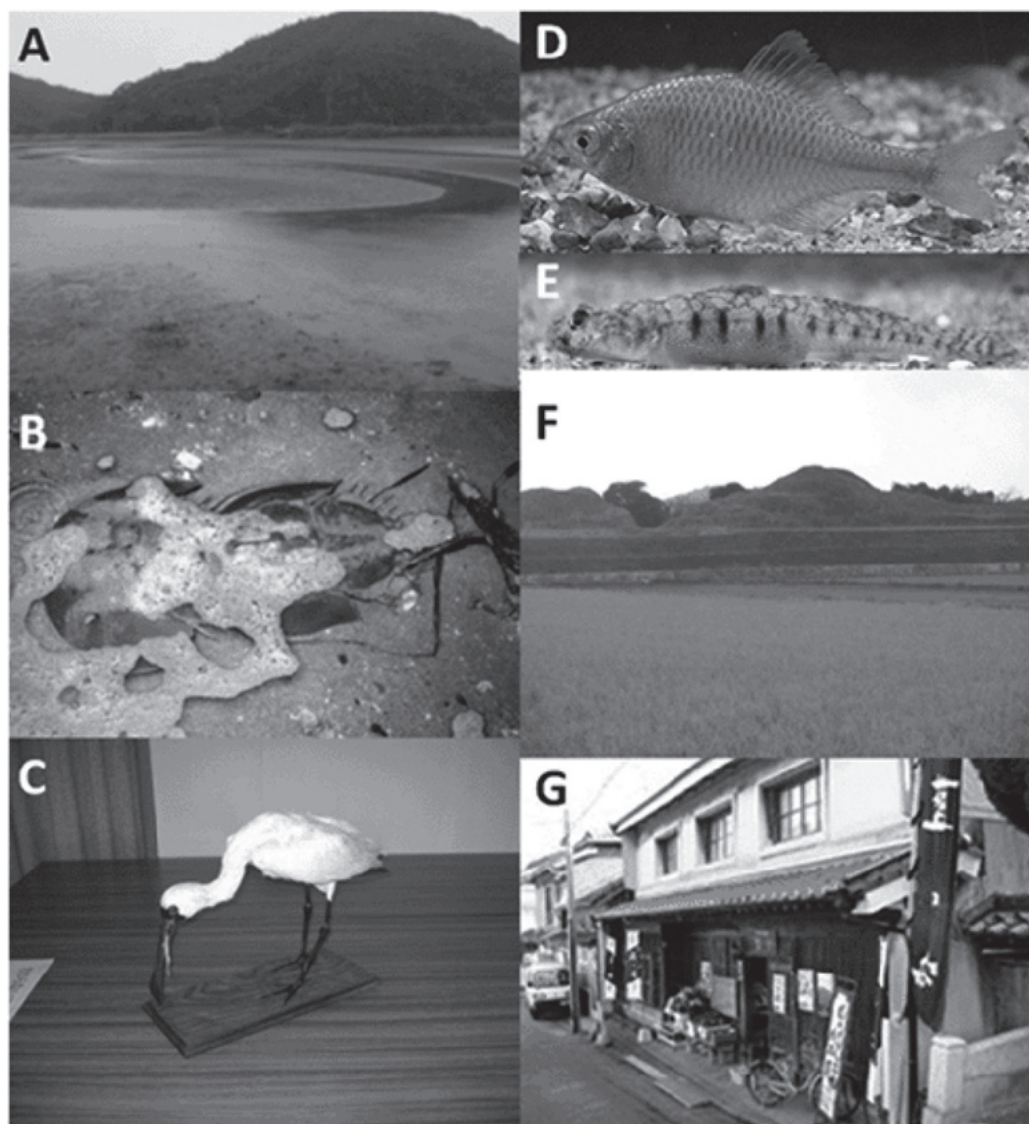


図 2. 津屋崎地区に見られる自然遺産・希少生物・歴史遺産. A: 津屋崎干潟; B: カプトガニ (産卵の様子); C: クロツラヘラサギ (剥製標本); D: ニッポンバラタナゴ; E: チクゼンハゼ; F: 古墳群; G: 明治時代の街並み (重要文化財).

3. 活動計画

この地区には希少な野生生物が多いため、また多様な歴史・文化遺産が存在するため、個別ではあるが既に質の高い保全活動が各種保全団体によって実践されている。したがって、最初に、①それぞれが個別に行う活動や地域遺産に関する情報交換の場を提供、具体的には小会合を繰り返し実施することで、お互いの合意形成を促進しながら、ネットワーク構築作業を行うこと、更には、小会合を継続しながら、保全啓発活動を計画すること、そして、③一般への大規模啓発活動としてフォーラム、展示会、エクスカージョン等を共同で開催することを通じて、ネットワーク組織の更なる充実を図るとともに、福津市の自然・生き物、歴史・文化遺産を統合した地域遺産の複合的な保全を長期的に実現させるための基盤構築を促すというイメージである（図3）。

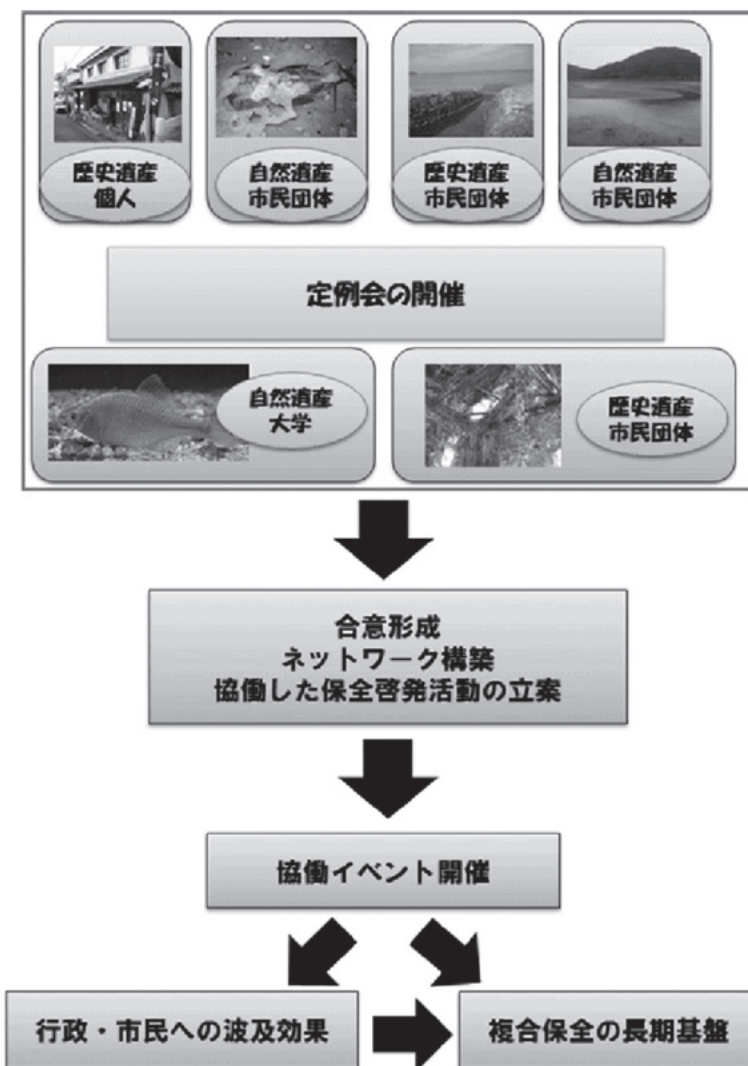


図3. 津屋崎地区におけるネットワーキングから複合保全のための長期的基盤形成のためのプロセス（当初計画イメージ図）

4. 活動報告

(1) 合意形成のためのアプローチ（ネットワークづくり）

本課題を開始した当初のメンバーは、福岡都市圏の生き物を考える会以外では、カブトガニ調査や小学生を対象とした自然体験学習会などを実践している「つやぎき海辺の自然学校」の1団体のみであった。2団体が第1回会合（平成20年5月15日）および第2回会合（平成20年8月22日）を開き、

- ・「長期的保全を視野に入れた団体間のネットワークを形成しましょう」では、容易に協力を得られない。具体性が必要である
- ・「地域遺産の保全・啓発のためのイベントを開くので、ご協力ください」という方法で市民団体を集め、実行委員会を繰り返し行う中で、徐々にネットワーク形成を促進していくのが効果的である
- ・まずは、我々と交流のある市民団体に呼びかけ、協力いただける団体がさらに次の団体に声をかけ、参加を促すような形式で、徐々にネットワークの輪を広げていくのが、確実なプロセスである

という結論に至った。そこで、「共同でイベントを開催することで、団結しましょう！」といったイメージのビラを作製し(図4)、福津市内で活動する市民団体および個人に配布した。配布枚数は約100枚程度であったが、第3回会合時（平成20年9月26日）には、日ごろ各種市民活動を実践している19名が結集した。



図4. ネットワーク形成のための市民団体への呼びかけ用ビラ。

会合の中では、ネットワーク構築の必要性や自然・生き物と歴史や文化を統合した複合保全の重要性等の理解を促すための講演を行い、また、別途、各市民団体のフィールドを巡るエクスカージョンを開催して(平成 20 年 10 月 18 日開催：図 5)、情報交換を行い、お互いの理解を促した。

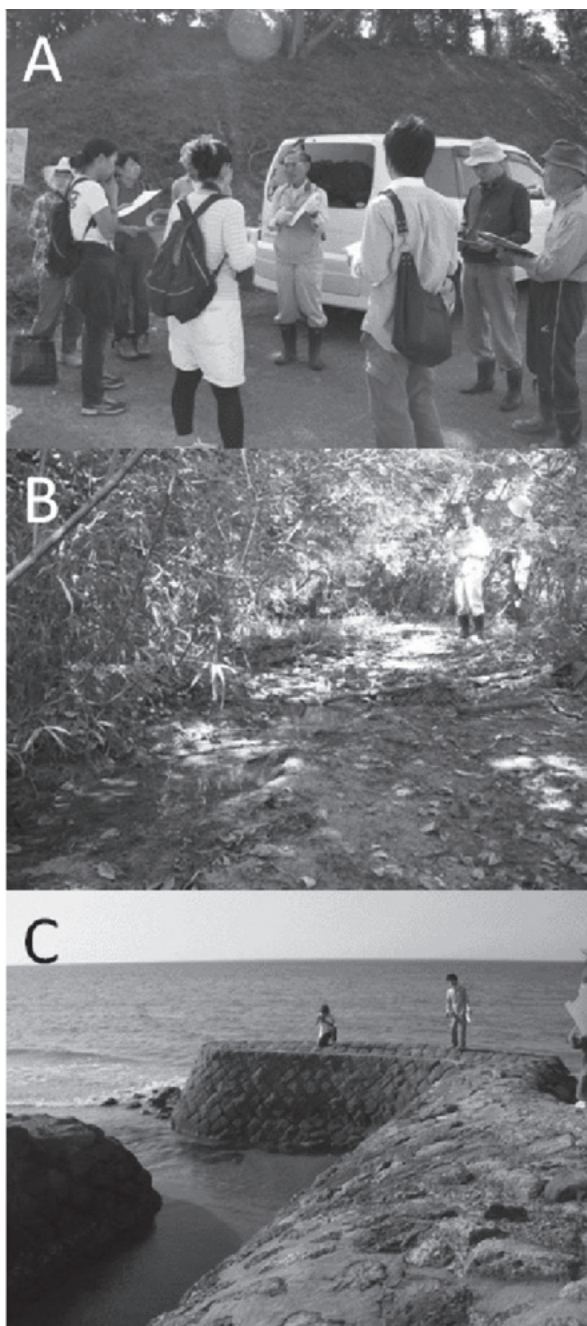


図 5. 各市民団体のフィールドを巡るエクスカージョン。A：参加者に活動場所について説明する様子；B：湿原を散策する様子；C：塩田跡地の海水取水路を見学する様子

(2) 合意の内容と保全啓発活動の計画

その後も小会合を繰り返し実施することで(平成20年10月24日～平成21年1月30日までに合計7回)、徐々に団体間の合意形成を促進した。小会合の早い段階で、フォーラムの共同開催を打ち出し、それを全員の合意形成の中で実践するという目的意識の明瞭化によって、比較的スムーズに以下の合意形成が得られた。ただし、本提案課題の中で代表者が最も重要視したのは、合意形成の部分である。長期的な保全を想定したとき、ネットワーク間の亀裂を将来生まないためにも、互いの日々の活動やその活動に対する目的意識の理解、そしてネットワーク組織の活用方法の検討などに時間をかけた。概ね、ネットワーク組織に関する合意内容は以下のとおりである。

本ネットワーク組織は福津市内のすべての地域遺産に目を向け、複合的な保全と活用を目指した協同イベント「30世紀福津フォーラム」を開催することを目的としたネットワーク組織である。イベント開催のための組織名を「30世紀福津フォーラム実行委員会」とし、実行委員長を「福岡都市圏の生き物を考える会 代表・鬼倉徳雄」、事務局を「つやざき海辺の自然学校」とする。

本組織における当面の目標は、第1回30世紀福津フォーラムの実現とする。本ネットワーク組織に参画する上でのマナーとして、各々の市民団体が日常的に行っている活動に対し本組織は直接的に関与しないこととする。もちろん、各々の市民団体間の合意形成のもと、本組織のネットワークの相互利用を積極的に行う行為、たとえば、他の団体への講師依頼、他のイベントの共同開催などを推進し、本組織をお互いの日々の活動に対して有用に活用することを促すものとする。

保全啓発活動に関しては、実行委員会メンバーの総意として、

- ・福津市に存在するすべての地域遺産を見つけ出すこと
 - ・それらを市民や行政に知ってもらうこと
 - ・それらの地域遺産を少なくとも30世紀まで残すこと
 - ・単なる保全啓発ではなく、それらの積極的活用の必要性についても啓発すること
 - ・切り離されがちな歴史と自然などを複合した地域遺産の保全の必要性を啓発すること
- などが確認された。そして、それらの総意を反映した

「第1回30世紀福津フォーラム—つなげよう！ 自然と人の営みを—」

というイベントのタイトルが決定した。「30世紀まで福津の歴史・文化・自然・生き物・地場産業などをつなげたい。そして、歴史・文化・自然・生き物・地場産業などの地域遺産をつなげたい」という実行委員の想いが込められたものである。そして、その後も会合を繰り返し、随時、イベントの内容が決められていった。以下、宣伝用ポスター(図6)を示す。

このポスターはコンビニエンスストア、弁当店、公民館、コミュニティーセンターなど、市民の出入りの多い場所に掲示すると共に、A4版も作製して回覧板の中に入れ、福津市の全世帯が最低一度は目にするように工夫した。その他、福津市の市政だより、各種新聞、福津市のホームページにて、広報を行った。



図6. イベント宣伝用ポスター。様々な商店や公民館に掲示すると共に、A4版を大量に作製し、回覧板に挟むなどして、福津市内全世帯の目に触れるように工夫した。

(3) 保全啓発活動（総合イベントの開催）

本イベントの参画団体は実行委員を含め、市民団体・個人・高等学校の部活動・大学の研究室・小学校・幼稚園・保育所などであり、全25団体となった。そして、2日間の開催期間中に延べ200名を超える一般来場者数を数えた。なお、本イベント開催にあたり、福津市および福津市教育委員会の後援をえることができた。以下、フォーラムのプログラムを示す。

タイトル：30世紀福津フォーラム—つなげよう！ 自然と人の営みを—

場所：福津市文化会館（カメラホール）

日時：平成21年1月31日(土)～2月1日(日)

主催：30世紀福津フォーラム実行委員会

後援：福津市・福津市教育委員会

プログラム1日目(平成21年1月31日)

11:00 開会式(図7A、大研修室)

11:20 展示会(展示会場および廊下)

- ・クジラ実寸大(図7B:蛭田密)
- ・クロツラヘラサギ写真展示(図7C:尾上和久)
- ・魚類の水槽展示(図7D:福岡都市圏の生き物を考える会)
- ・アナジャコと魚類の共生に関する実験事例展示(九大)
- ・農と漁業の紹介(つやざき海辺の自然学校)
- ・観察会等の報告(環境ネットワーク虹、図7E:福岡都市圏の生き物を考える会、つやざき海辺の自然学校)
- ・希少な野生生物の生息の現状と今後の課題(福岡都市圏の生き物を考える会、つやざき海辺の自然学校)
- ・生物紹介(御供田自然を守る会、北九州高校魚部、九州大学)
- ・歴史紹介(図7F:藍の家保存会・九工大)
- ・多自然川作りの実践事例報告(九大)
- ・小学校の絵画(福津市内の各小学校)
- ・小学校の作文など(福津市内の各小学校)
- ・ニッポンバラタナゴ塗り絵(図7G:福津市内の各幼稚園・保育園)
- ・その他、無農薬野菜の直売・廃油から石鹼を作る!など

13:00 分科会(3会場に分かれて同時進行)

1. 発見! 奇跡の自然と希少な生き物(図8A-B:九州大学 中島淳・中研修室)
2. 発見! 豊かな心を育む学び舎(図8C-D:つやざき海辺の自然学校 板谷晋?・環境ネットワーク虹 佐伯美保・和室A)
3. 発見! 福津の歴史と文化(図8E:九工大 井上進也・藍の家保存会 今橋勢津子・大賀康子・渋田和美・和室B)

15:10 基調講演(大研修室)

1. 森はクジラを育てる(図8F:アクアチック・アニマル コンサルティング 蛭田密)
2. 生き物が人の営みを物語る(図8G-H:九州大学 鬼倉徳雄)

プログラム2日目(平成21年2月1日)

10:00 表彰式

1. ニッポンバラタナゴ塗り絵コンテスト表彰(図9A-E)
2. 福津市内の優秀市民団体表彰(図9F)

10:30 体験教室

1. 塩づくり・トコロテンづくり(図10A-C:蛭田密・今橋勢津子・前の園一美)
2. 語り伝えよう!(図10D-E:おはなし会「昔っこ」)
3. 投網の投げ方、標識再捕調査とは?(図10F-G:九大)

13:00 エクスカーション

1. 福津の歴史を巡る旅(図11A-D:九工大・藍の家保存会)
2. 津屋崎干潟の周囲の生き物を巡る!(図11E-H:つやざき海辺の自然学校・九大)



図7. 開会式と展示会の様子. A: 開会式; B: クジラ実寸大展示; C: クロツラヘラサギ写真展; D: 魚類水槽展示; E・F: ポスター展示; G: 塗り絵コンテスト.



図8. 分科会と基調講演の様子. A・B: 生物分科会; C・D: 学び舎分科会; E: 歴史分科会; F-H: 基調講演.



図9. 表彰式の様子。A：表彰作品の前で記念撮影；B：子供の作品を眺める母親；C：表彰式会場；D-F：表彰の様子。

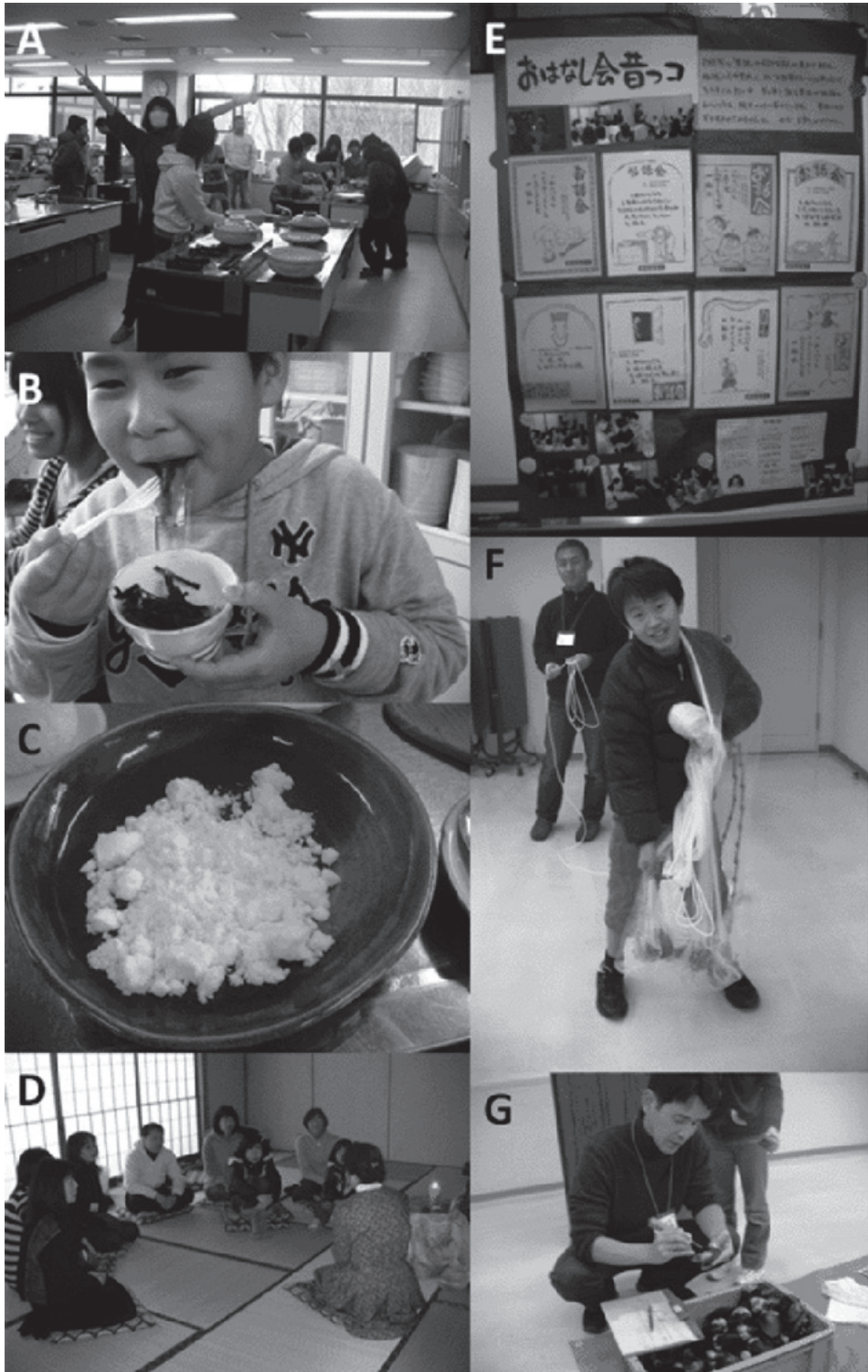


図 10. 体験教室の様子。A-C：塩づくり・トコロテンづくり体験教室；D-E：おはなし会の様子；F-G：投網・標識再捕教室。

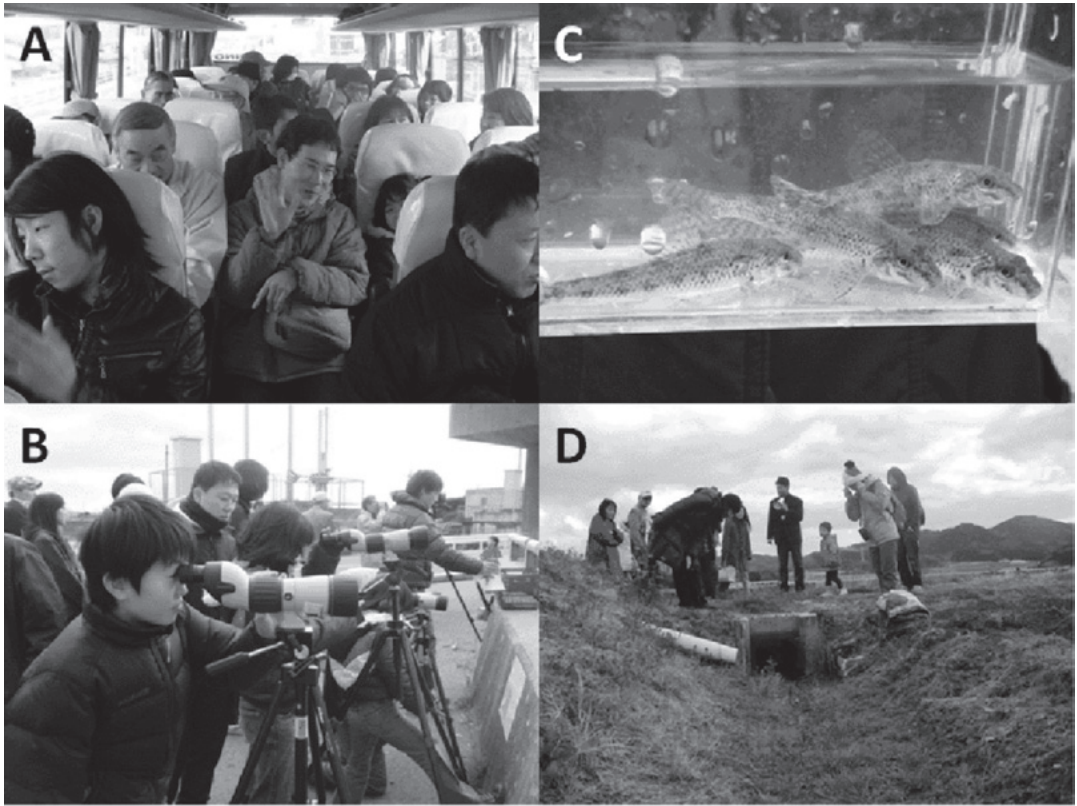


図 11. エクスカーションの様子。

(4) 事後評価と今後に向けての会合

本イベントに参加した一般来場者にはアンケート調査を行っており、その集計結果を図 12 に示す。来場者数は延べ 200 名を超えたが、アンケートの回収数は 45 枚であり、4 分の 1 程度となった。恐らく、家族で参加した場合に、父親もしくは母親が代表してアンケートを記入するなどしたため、回収率が悪かったものと考えている。

本イベントのテーマは福津市の地域遺産であったため、来場者の多くはやはり福津市在住の方々であったが、福岡市や北九州市に在住する方々も比較的多く参加されていた(約 20%)。その他、福津市の隣に位置する古賀市と宗像市からの参加者数が多かった。来場者の職業は主婦、会社員、高校・大学生、公務員、教員など、様々であり、幅広い方々が本イベントに興味を抱いたことが伺える。また、その他に含んだが、福津市内の市議会議員の来場もあった。ただし、先にも述べたように、家族で参加した場合、両親が代表して記入したケースが多く、アンケート集計結果では 11% となっているが、実際はもう少し子供の参加が多かったように見受けられた。

来場者が何に興味を抱いているか、に関する問いについては、歴史・文化(27%)、自然・生き物(44%)、伝統産業(10%)、農林水産業(7%)、教育(11%)であり、自然・生き物に興味を持つ人が多いことが分かった。残念な点は、本イベントはすべての地域遺産に目を向けるための複合イベントであり、アンケート項目の中に、「全て」という欄を設けておくよかったのではないかと考えている。

イベントの内容に関しては、展示会(36%)、分科会(22%)、講演会(26%)の3つが高い評価を受けた。これらはすべて1日目の催しである。表彰式、体験教室、エクスカーションが低い数値を示しているが、2日目の来場者が全般的に少なかったことに起因していると考えている。1日目、2日目のイベント内容の組み合わせを変えるなどの工夫が、次回以降のイベント開催に必要であると考えている。

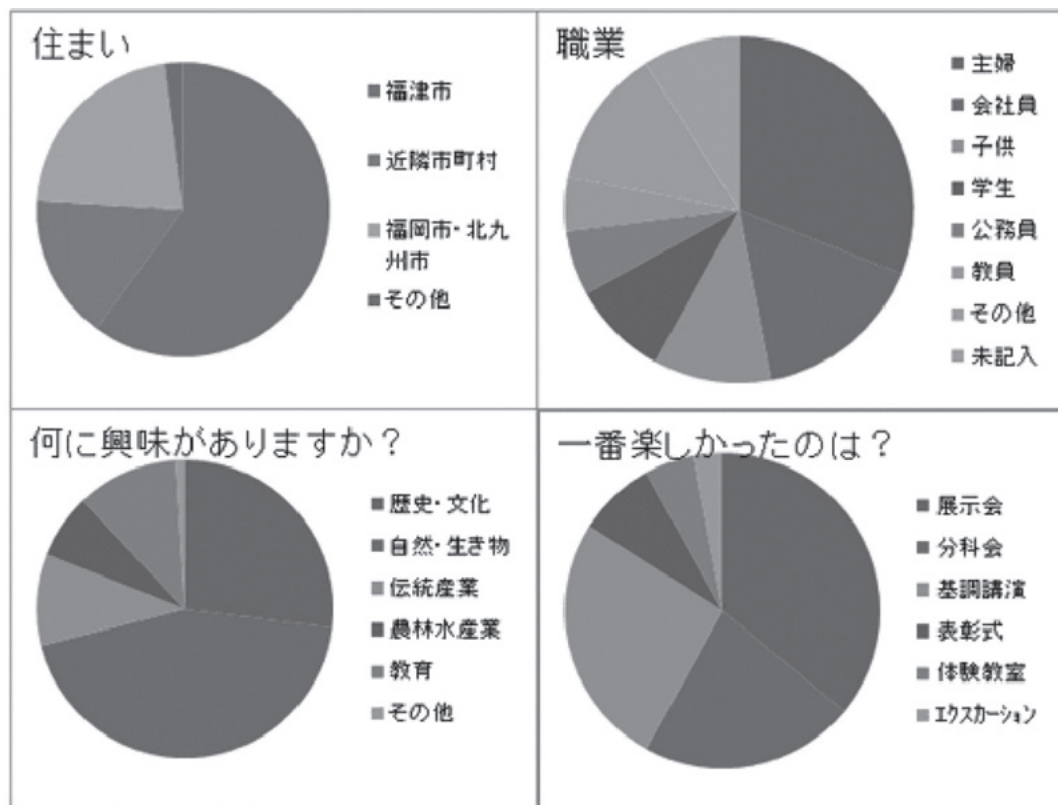


図 12. アンケート集計結果.

イベントの感想については、「身近な自然にこんなすばらしい生き物が住んでいたことを知り感動した」、「地域の歴史や文化遺産に触れることができよかった」、「次世代の地域に対する関心・意欲を育てるすばらしいイベントだと思う」など、全体的に高評価を得ている。

また、アンケートの中では、「次回以降に取り上げてほしい福津の宝を教えてください」などの記述欄があり、実行委員の気がつかなかった地域遺産を知る良いきっかけとなった。イベントをどこで知ったかについては、回覧板・新聞は11%であり、知人からが最も多かった(58%)。次回以降の広報戦略に生かしたい。

最後に、このようなイベントに実行委員として参加したいかの問いに関しては、20%の方がはいと答えていた。イベントを自ら企画し、実行する意欲と活力がある方々が実行委員メンバー以外にもいらっしやることが明らかとなった。そして、実際にフォーラム終了後、幾つかの市民団体から「来年以降の30世紀福津フォーラムには、ぜひ、実行委員と

して参加させてほしい」という問い合わせが来ている。次回以降、実行委員の公募を更に拡充していき、ネットワーク組織の充実を図りたい。

平成21年2月20日には、再度、実行委員が集合し、今後について議論した。その中で、

- ・30世紀福津フォーラムの継続(毎年の開催)
- ・複合保全の重要性の再認識
- ・ネットワーク組織の重要性
- ・構築されたネットワークの相互利用
- ・行政との更なる連携(後援から共催へ、そして将来的にはイベント会場費の補助など)

などが確認された。次回の開催日程は今のところ決まっていないが、30世紀までの継続を目指すのが、実行委員メンバーの熱い想いである。

5. 最後に

本提案課題は、様々な地域遺産に目を向けた複合的な保全啓発を目指している点、各種市民団体が実行委員会を通じてネットワークを組織した点、イベント参画団体が市民団体以外に幼稚園から大学までの広域に及んでいる点で、極めて先駆的かつ画期的な試みと言える。地域遺産の複合的な保全と活用を目指した長期的な基盤形成という点で、ネットワーク組織設立のきっかけとなった福岡都市圏の生き物を考える会、そして、課題を遂行するための資金について助成していただいた TaKaRa ハーモニストファンドの果たした役割は極めて大きい。今後、次回以降のフォーラムの継続はもちろんであるが、構築されたネットワーク組織の相互利用など、積極的に展開されることを期待している。そして、福岡市・北九州市の大都市に挟まれた立地ではあるが、人間活動によって地域遺産を荒廃させないように、このネットワーク組織が中心となって地域遺産の重要性を啓発し、保全し、積極的に活用することで、熱い想いが多くの市民と行政担当者へ届き、福津市の地域遺産が長期的に守られていこう。

しかしながら、このネットワーク組織形成と組織を通じたフォーラムの開催・成功は、福津市における長期的保全基盤形成計画の第一歩に過ぎない。最も大切なことは継続である。次回以降の活動資金をいかにして調達するかが当面の鍵となるが、このネットワーク組織の活動が途切れないように、年1回のフォーラム開催を最低限の目標として今後の活動を継続するつもりである。

